

中高生とともに差別と闘う

ピンチはチャンス

吉成タダシ



勝ち負けより大切なもの

「とうとう体育祭がやってきた。リレーでサキが転んでしまい、初めは最下位だったけれど、四位まで上げることができ、五組の団結力は本当にすごいと思った。総合順位は三位。みんなの団結力があつたからこそ三位になることができた。」

僕は、今まで総合順位にすぐくくだわっていて、悪い順位だったとき、「あいつのせいで負けた」とか、「あいつが遅いから」とかずっと言ってきた。けど、順位なんて関係ない。クラスが一つになり、一致団結することの意味がある。そう気づかされた最後の体育祭だった。先生が言った、「勝ち負けより大切なものがある」ことの意味が、やっと分かった気がした。」

順番がつく以上、放っておけば順位が気になるのは当たり前です。そのとき自分のなかに渦巻いてくる醜さを、誰も否定することはできません。それも人間らしさです。だからといって、他人を責めていいわけはありません。でもそれは、誰かに説教をされて分かるものではありません。分かったような気にはなれませんが、きっと本当には分かっているのです。自分で気づき、心の底からそう思えて初めて、分かることができるのだと思います。

「誰かの頑張りが自分の力になる」「みんなの支援が自分の力になる」残念ながら優勝はできませんでしたが、「勝ち負けより大切なもの」を、

子どもたちは手にしたのかもしれない。いえそれは、人権学習を進めていくなかで、すでに手の届くところにあつたのかもしれない。子どもたちが必死の思いでトラックを駆け抜ける姿が、本当に眩しく映りました。本当の意味での全員リレーだったと思います。みんなの想いが一つになった瞬間でした。実践から学んだ、最高に素敵な人権学習の時間でした。三位という記録もありますが、それ以上に記憶に残る体育祭となりました。あの場に共にいられたことが、私にとって何よりの幸せでした。

と生徒の日記を載せると、思いがけず保護者の方からお手紙をいただきました。これもまた、嬉しいものだった。

ミスせずやりきったということも、自信になるでしょう。でも、「ミスをカバーした」「ミスを挽回した」といった経験も、後の生活や人生にとって、きっと大きな役に立つのです。ピンチをチャンスに変えられる力は、失敗を成功に変えていける力になるからです。それまでマイナスとしか思えなかった出来事が、忘れられない、記憶に残る素敵な思い出と変わっていくのです。そして、ミスをした仲間になんか、「ありがとう」と思えるようになっていくのです。子どもたちの本当のつながりが、子どもたち自身を変えていくのです。

ピンチはチャンス

保護者へのお願い

「学級だよりを読みました。体育祭の子どもの感想を読み、大変感動しました。団結力があつて、思いやりがある仲間が集まった、いいクラスなんだなあと、文章を読んでも、写真を見ても感じました。中学の思い出は、大人になってもしっかりと忘れられないものになると思います。息子をはじめ、他の子どもたちも大変いい経験ができたのではないかとうれしく思い、これからの心と体の成長を楽しみにしています。これからも、よろしくお願いたします。」

それから月日は経ち、進路決定や卒業の時期、私は保護者のみなさんに一つのお願いをしました。

「……いよいよ進路決定に向けて力が入っているところかと思えます。進路決定が近づいてくるといふことは、同時に卒業も近づいてくるといふことです。そんな節目が、人生には幾度となくあるものです。友人たちと近隣で生活しているとはいえず、義務教育での別れも、人生における大きな節目の一つであることに変わりはありません。」

「誰かの頑張りが自分の力になる」「みんなの支援が自分の力になる」残念ながら優勝はできませんでしたが、「勝ち負けより大切なもの」を、

この一年、人と人とのつながりについて、人権学習を通して子どもたち

ちと考え合ってきました。それは、友人との関係だったり、家族との関係だったりします。

卒業に際し、保護者のみなさまに一つお願いがあります。お子さまの「義務教育修了」という大きな節目に、「励ましの言葉」を贈っていたいただきたいと思うのです。卒業式は学校行事ですが、それだけではなく、卒業という大きな節目が、家族を見つめる一つのきっかけになればと思うのです。…追伸…お子さまには内緒にしておいてください。」

人生に出会いがあるならば、別れる瞬間も必ず来るものです。素敵な別れを経験した人は、新しい出会いを大切にします。逆に、素敵な出会いをした人は、別れの瞬間も大切にできるのだと思います。そんな節目を大切にできる人になってほしいと願ひ、卒業に寄せて、「励ましの言葉」を一片の紙に書いていただき、卒業式の日子どもたちに贈ることにしたのでした。

「家族の絆・故郷への思い」私が大切にしてきたテーマです。差別が家族の絆や故郷への思いを断ち切ってきた現実を見ました。でもそれは、差別・被差別に関係なく、本来誰にとってもかけがえのない大切なものだと思うのです。義務教育修了の終着点は、そこだと思ふのです。

数日後から、思いのこもった一片の「励ましの言葉」が、次から次へと私のもとに届きはしました。